

「えのくま日記」五十九号

平成二十八年九月 〽 平成二十八年十月

「感謝の運動会」

末田 祥子（年長ほし組担任）日記

今年度は、練習の時から天候に悩まされましたが、十月九日（日）運動会当日も早朝は雨が降っていました。プログラム内容を一部変更し、一時間開始時刻を下げての実施が決定すると、グラウンドの整備が始まりました。職員と共に、場所取りで早く来られていた保護者の方々も快く協力していただきました。みんな子どもたちのために必死でした。運動会終了後も、テントの片付け等にたくさんの方々のご協力をいただき、本当にありがとうございました。

とても疲れましたが、心地よい疲れでした。体のあちらこちらが数日間悲鳴をあげていましたが…。無事に運動会ができて良かった！
（十月十二日）





今年の祖父母参観日も五百名を超すお客様をお迎えし、大賑わいの一日となりました。駐車場のお母さん方十数名のご協力もいただいて、車の大渋滞もなくスムーズに実施することができました。

十教室それぞれに、楽しい触れ合いの姿が見られました。先生達のほとんどが、多くのおじいちゃんやおばあちゃん、そして保護者のご協力で、温かい雰囲気の中で楽しく「笑顔と笑顔のキャッチボール」が出来た喜びを実感していました。

子どもたちの中には、日頃と違う雰囲気の中、祖父母やママに甘える姿も見受けられましたが、逆に見違えるほど良い態度の子も多く、微笑ましく感じました。

参観にお越しの皆様にご感想を頂きました。ありがとうございました。紙面の関係でクラスからお一人ずつ紹介させていただきます。

☆荒井研一・みどり・横山 秀美（年少ひかり組Rちゃん祖父母）

今日は、楽しい時間をありがとうございました。孫の成長した姿に感動しています。元気な先生に指導していただき嬉しく思います。これからもよろしく願います。とても楽しそうにしてる姿が嬉しかったです。よろしく願います。

☆佐藤みほ（年少はな組Tちゃん祖母）

久しぶりの孫は、一人でトイレに行ったり椅子をだしたり、しっかり行動できるようになり幼稚園生活の中で成長している姿に感動しました。今日は、とても楽しかったです。先生の御努力に感謝いたします。

☆浦川 由美子（年少ゆき組Mちゃん母）

子どもたちの普段の姿を見ることができて良かったです。後片付けやトイレなど、先生の言う事に応じている姿を見ると、日々成長しているのだなと感心しました。自分の子だけでなく、他のお子さんの遊ぶところなども見れたので、また次回の参加を楽しみにしています。

☆藤原 均（年中そら組H君祖父）

日頃は、仕事が多忙で、なかなか触れ合うことがないのですが、久しぶりにゆつくり向き合うことが出来、ちよっぴり緊張気味の様子でしたが、楽しく触れ合うことができました。孫の成長を感じることができ、仕事の活力となりました。ありがとうございました。

☆三浦 光子（年中わかば組K君祖母）

昨年の参観日は泣きっぱなしの孫でしたが、今年は楽しそうに生き生きと遊ぶ姿に一年の成長が見てとれ感激いたしました。先生の子どもの心の捉え方にも感動いたしました。また来年来るのが楽しみです。今後もしっかりお願いいたします。

☆勝村 節子（年中ことり組O君祖母）

今日は楽しい一日を過ごさせていただきました。遠方（京都）にいたので孫の園の様子が気になり、いつも携帯で尋ねておりましたが、実際に園での生活を見させていただき楽しくしている様子だったので安心しました。お友達からいっぱい名前を呼んでもらったり、親ごさんからお声掛けしていただき感謝しております。ありがとうございました。

☆衛藤 君子（年中じ組Kちゃん祖父母）

子どもの成長が感じられました。笑顔がたくさん出ていて、幼稚園の日々を楽しく過ごしているのだらうと思いました。このまま元気に明るく大きくなって欲しいと願っています。

☆大久保 泰代（年長なぎさ組S君祖母）

今日は本当にありがとうございました。それぞれの子どもたちの姿が本当に微笑ましいです。孫は元気が良く、いつも先生に氣遣って頂いている事と思いますが、とても楽しそうにして、照れているのがまた可愛い！ありがとうございます。

☆山本 竜彦（年長つき組A君祖父）

毎年、参加させてもらっています。子どもの成長の凄さには目を見張る思いです。スクスクと成長している様をみて、大変嬉しく思っています。いつもありがとうございます。これからも宜しく願います。

☆佐藤 朋美（年長ほし組Aちゃん祖母）

今日は、楽しい時間をありがとうございました。自分が子育てした頃が懐かしく思います。小さな子どもたちのお世話は本当に大変と思います。これからも運動会で大変でしょうが、宜しく願います。本当に楽しかったです。

「皆で楽しく頑張る幼稚園」

園長日記

九月第三週の月曜日は大雨となりました。久し振りに記念館北側の駐車場に、巨大な水溜りができました。

そんな悪いコンディションの朝、えのくま幼稚園に多くのお母さん方が来られました。「読み聞かせボランティア、えのっこクラブ」や父母の会の保体部、広報部さん、そして数十人の「バザー実行委員」と父母の会役員の皆さん方です。活動内容はそれぞれ違いますが、いずれの皆様も、子どもたちの為に、幼稚園教育をサポートし推進してくれています。企画や準備をしっかりして、皆で取り組む活動は、時間や労力もかなり大変ですが、結構やりがいのあるものです。大雨の日に、集まられ熱心に、そして笑顔で取り組まれているお母さん方を見て、とても有り難く思いました。活動が一区切りしたら、「缶ビールぐいっと一気飲み」でもされて下さい。

（九月十二日）



「長靴でかけっこ」

園長日記

先生達は、夏休み中に「学園創立七十周年記念 えのくま幼稚園うんどうかい」の計画を立て、子どもたちと楽しく真剣に取り組む準備をしていました。

ところが、あいにくの雨の日々で、二学期がスタートしてグラウンドで全園児が揃っての全体練習がまったくできていません。本日は、活動が始まる午前十時頃、やっと雨が止んでくれたので、全園児が記念館に集合して、入場行進などの練習をしました。初めてにしては子どもたちは、先生からのお約束を守って、良く行進できていました。その後、晴れ間も見られるようになり、園庭で年長さん三クラスのクラス対抗リレーが行われました。ランナーはクラスの勝利を目指して懸命に走っていましたが、半数近くが長靴でのかけっこでした。これまで何十年も、運動会の練習を見てきましたが、大変珍しい光景でした。「長靴リレー」を制したのは「なぎさ組」、二位は「ほし組」三位は・・・運動会の本番が楽しみです。

（九月十五日）

「苦汁の判断 心がへこんだ」

園長日記

前の台風十二号の対応と同じく、今回の台風十六号に備えて早朝三時よりTVの気象予報にかじりつきました。

しかし、今回は前にも増して難しい判断となりました。台風の最大最接近は午前六時頃、通過後の保育が始まる午前十時頃には、天気が回復することも予想されただけに、苦汁の判断となりました。二学期は悪天候が続く、運動会の練習が例年に比べ随分と削られているこ

ともあり、かなり悩みましたが、園児の安全を考え、休園を決めざるを得ませんでした。子どもたちの元気な声が聞けず、可愛らしい笑顔が見られない幼稚園は寂しいものです。今回は少し「心がへこみ」ました。そんななか、先生達と「貴重な時間を有効に使おうよ！」と話し合っ、運動会に向けての協議や準備をしました。バスの先生達は、運動会で使う竹を切りに行ってくれました。台風で「へこみ」かけた心が、少しだけ持ち直しました。

(九月二十日)

「パワフルお母さん」

園長日記

秋の交通安全運動の呼び掛けを、今年も年長さん達が、大分南交番前で行いました。年長さんは、手作りのお守りをドライバーさんに渡しながら「交通あんぜん、おねがいします」と呼びかけました。呼びかけの間は、多くのお巡りさんが大変優しく、丁寧な交通規制で、子どもたちの安全に細心の注意を払ってくれました。

ボランティアをお願いしたお母さんたち八名は、とても熱心でパワフルでした。両手に二人の子どもの手をとり、お巡りさんが車を停めてくれている間に、小走りで車に近づき、時には、子どもを抱え上げてドライバーさんへの呼び掛けのサポートをしていただきました。交番の署長さんが「統率力のある先生ですね」と見間違っ、褒めていただくほど、熱心な「パワフルお母さん」達でした。お蔭様で子どもたちは、有意義で楽しい活動をする事ができました。ありがとうございます。

(九月二十三日)

「年長さんの卒園だいこん」



園長日記

土曜日の午後は、珍しく天気が良かったので、「えのくまファーム」に堆肥をまいて、耕しました。

年長さんたちが今夏、スイカを植えていた畑の収穫が終わり、秋野菜の「だいこん」の種まきの日が近づいてきました。十月上旬に種をまき、来年の一月〜二月にかけて収穫します。四時間かけて、二リットル程の大汗をかきながら耕しました。種まきの時の「大きくなれ、大きくなれ」の子どもたちの大合唱や、収穫の時の「大きい！」の大歓声を頭に浮かべながらの作業でしたが、年長さんたちには幼稚園生活の最後となる「卒園だいこん」になると思うと、寂しさも感じました。子どもたちが育てた「だいこん」は、卒園前に最愛の人へのお土産に持ち帰ります。

(九月二十四日)

「かぐや姫のおじいさん」



紙芝居屋のおじいさん日記

今週の始まりも雨でした。子どもたちに、せがまれて「雨がふったら紙芝居」をリクエストが多かった年長ほし組で、五十名程のお客さんに囲まれて行いました。

本日の演目は、子どもたちにお馴染みの「かぐや姫」でしたが、紙芝居が始まって「紙芝居屋のおじいさん」が子どもたちに問いかけた第一問「おじいさんは、どうして竹を切りに行っていたの」に対しては、多くの子どもの手が上がり、それはそれは奇想天外な答えが返ってきました。「タケの子をとるため」「家を建てるため」や「おかね持ちになるため」にまじって「かぐや姫を産むため」等の答えが出てきて、いきなり盛り上がりました。「おじいさんには、かぐや姫は産めないよ」と答えて、みんなで大笑い。楽しい紙芝居となりました。

(九月二十六日)

「やっぱり親子だなくと感じた誕生会」

河本 順二(年中そら組保護者) 日記

今日は妻の代理で、やや緊張しながら誕生会に参加させていただきました。園児さんがホールに集まると賑やかにになり、最後にかわいい王冠を被った九月生まれの園児さんが入場しました。

会の中盤、先生より「大きくなったなら何になる?」と質問され、「幼稚園の先生」「ヒーロー

「警察官」など、それぞれの園児さんが発表してまわり、息子は順番になるまで「宇宙人」か「海賊」で悩んでいる様子。結局、最後まで悩み、先生に「宇宙人」と言って頂けたことで安心した表情に戻りました。優柔不断の私に似ているなど思いました。その後、先生による楽しい出し物が披露され、心温まる誕生会でした。息子が宇宙人になれるとは思いませんが、今日は私にとっても思い出に残る貴重な一日でした。

(九月二十八日)



浦川 由美子 (年少ゆき組保護者) 日記

「初めてのお誕生会」

娘は、この日をずっと楽しみにしていました。と言うのも、今までのお誕生会の様子を家でよく真似しており、我が家では幾度となく通し稽古が行われていたのです。抱っこしてくれる先生役、「お名前なあに？」を聞いてくれる在園児の役を主人と私に割り振る熱の入れよう。満を持して迎えた日だったのではないのでしょうか。

当日は、ステージ上での娘の様子にハラハラドキドキ、そして安堵と忙しい気持ちで見守りましたが、何より我が子の嬉しそうな顔が見られました。そしてお友達と集団生活を送るその姿を頼もしく感じました。娘の答えた将来の夢は「きやりーばみゅばみゅ」になる事です。もちろん本気です！来年は何と答えるのか、親としてはまた一つ楽しみが増えました。

(九月二十八日)



「えのくま幼稚園祭り準備開始！」佐藤 陽子 (年少はな組保護者・バザー実行委員) 日記

朝晩、ぐっと冷え込むようになり、入園から早いもので半年、季節も実りの秋を迎えようとしている中、娘も少しずつ逞しくなったように感じます。未だに朝は泣いてしまう事の方が多いですが、園での様子をいつも楽しそうに話してくれます。

そんな娘の頑張りを励みに、私もバザー役員(物品)として今、活動しています。物品担当は、各家庭から品物を持ち寄ってもらい、値段をつけたり、ラッピングをしたり、他の担当の方同様、当日の流れを想定して色々な事を話し合うのですが、どうしたら楽しんでもらえるか、スムーズに買い物してもらえるか等、案を出しています。当日を迎えるまでに何度も話し合いを重ね準備をしていく・役員として参加する事で行事を無事に成功させる事の難しさや大変さを改めて感じています。今年が創立七十周年という一つの節目として、子どもたちの笑顔の溢れる楽しい「えのくま幼稚園まつり」になるよう頑張っていこうと思います。皆様のご協力、宜しくお願いいたします。

(九月二十九日)

「僕たちの名前」

内藤 紀央 (年少ひかり組担任) 日記

降園準備の時間までお部屋で自由遊びをしていると、R君が「きお先生の名前かっこいい」と言ってくれました。それに対して「R君の名前もかっこいいよ」と返すと、「僕も!」「私も!」と、お友達同士で名前の自慢大会が始まりました。

その様子を見てみるとS君が私に「Sの名前はな、パパとママがつけたんで!」と真剣な表情で言いました。一言ではありましたが、S君の「すごいでしょ?」と言わんばかりの思いが込められているように感じました。そんなとき「子どもたちの名前にはどんな思いが込められているんだろう」とふと考えました。そして、子どもたちにとっては、お母さんお父さんから貰う初めてのプレゼントなんだなあとと思うと、何気なく始まった名前の自慢大会ではありましたが、その自慢したくなる気持ちをこれからもどこかに持ってほしいなと思えました。

(九月二十九日)

「子どもたちの運動会練習」

試行錯誤し練習に取り組む様子を週案日誌より紹介します

☆年少ひかり組（内藤 紀央）

開会式の入退場の流れはつかめてきたようで、スムーズに出来るようになってきた。ダンスは記念館での練習のためラインはなかったけれど、前のお友だちに付いていきながら、きちんと移動する事ができるようになった。

（九月二十九日）

☆年少 はな組（武生 香里）

雨のため、記念館を使用して練習を進めた。入場行進、開会式では間隔をあけての整列も、とても上手になった。しかし、じっとしていられなかったり、後ろを向いたりする姿が目立つので声掛けをしていきたい。玉入れは、合間におしゃべりをしないで立つ座るが大分分かってきたが、全体を見ると、まだ出来ない子もいるので注意していきたい。フィナーレは、入場がどうしても上手くない。検討する必要がある。ダンスは線はなかったが思った以上に上手に出来たので、これまでしてきたことが身についてきたと感じ嬉しかった。もう少し細かいところにも気を配っていきたい。

（九月三十日）

☆年少 ゆき組（小川 真里奈）

並んでから動き回ったり、ふらふらしてしまう姿が目立っていた。練習に参加したくないという子どもの姿もあり、個別に声を掛けていった。リレーでは、だいぶ流れをつかむ事が出来てきたが、友だちと協力して一緒に進めていくというところを、もう少し意識して楽しみながら出来るようにかかわっていききたいと思う。終わったら列の後ろについて並ぶところは上手く出来るようになった。

（九月二十六日）



☆年中そら組（岩武 まどか）

子どもたちに明日が小運動会であることを話すと「どんな事するの？」と興味を持って聞いてくれた。そのため今日の練習は、いつもより張り切って取り組む姿が見られて嬉しかった。明日は、子どもたちと一緒に楽しみながら進めていきたいと思う。（九月二十九日）

☆年中にじ組（小野 智美）

記念館での練習では、開会式など良く集中している姿が見られたが、なかなか待つことが出来ず、列が崩れる事があった。本番に向け、反省点も多く、一つひとつ残り少ない時間をどのように使っていくか、よく考えて来週からの練習につなげていきたいと思う。あせらず落ち着いて関わりたい。

（九月三十日）

☆年中ことり組（松本 美香）

記念館で小運動会をしていった。私自身、記念館で行うのは初めてだったので、どのような心配な部分があったが、何とかできて良かった。他の学年の競技を見る時の態度が良くなかったので、気を付けられるよう声掛けをしていきたい。本番とは大分違うところはあったが、流れを少しでも理解できて良かった。

（九月三十日）

☆年中わかば組（高橋 かおる）

雨天の為、記念館で行なった。かけっこはできなかったが、その他はできた。ダンスは一部の振りを間違えてしまったので、同じ事のないようにしたいと思う。（九月三十日）

☆年長 つき組（庄 恵理奈）

入場行進や開会式では、ぴしっとしたかつこ良い姿が長く見られるようになった。玉入れの時、すぐに戻るが静かになれないのが気になるので、そこが出来るよう声を掛けていきたい。鼓隊では、気持ちを入れて自分で音楽をとらえリズムを合わせられる子がいる反面、出来ない子もいた。繰り返し練習していきたい。

（九月二十六日）

☆年長なぎさ組（梶間 菜摘）

全体の練習では、集中できていない姿が多かった。またフィナーレでも、何度も同じ注意をされたが気付かなかつたり、時間が経つとまた同じ姿が見られ、その都度、声を掛けていった。鼓隊では衣装もつけて演奏したが、まだ揃わないところも多いため、外での練習でしつかり覚えていきたいと思う。

（九月二十九日）

☆年長 ほし組（末田 祥子）

記念館で入場行進の練習から始めた。運動会の練習を通して、ほし組は一番に整列して他のクラスの手本となるように待つことが出来るようになった。選手宣誓の時、代表以外の子がだらけてしまうので、こちらが声を掛けなくても自分で意識出来るようになって欲しいと思った。「すずわり」を初めてしたが高すぎることもあり、なかなか割れなかった。鼓隊はパートに分かれて二曲目の練習を主に進めていった。

（九月二十六日）



園長日記

「雨に負けなかった小運動会」

えのくま幼稚園では、小運動会はとても大切です。小運動会で、どの程度、子どもたちの取り組みが出来ているかを確認します。また、子どもたちは、初めて衣装を身につけてのダンスや、本番と同じやり方で競技をすることで、運動会の楽しさを実感し、運動会に向けての期待や意欲を高めます。

そんな、大切な小運動会の日には、またしても雨でした。翌週に台風が接近している事もあり、先生達と相談の上、父母の会の役員さんや運動会実行委員のお母さん達、総勢三十名以上のご協力を得て、えのくま幼稚園が初めて取り組む室内での小運動会が実施されました。練習不足で、例年に比べると、不揃いであったり、緊張感や集中力に欠ける部分は数多くありましたが、先生達の熱血指導やお母さん達の温かい拍手は、子どもたちに良い刺激や励ましとなりました。雨や台風で練習が満足にできないけれど、いろんな工夫をし、逆境をバネに子どもたちのやる気を引き出していきます。

（九月三十日）

「バザーの話し合い」

永瀬 真弓（年中ことり組保護者・バザー実行委員） 日記

九月の中旬から、バザーの話し合いが始まりました。バザー担当は初めてなので、毎年こんなにも早くから準備に動いてくれていたのかと思うと、感謝と同時に自分達もより良いものを作っていきたいという気持ちになりました。

私は、ゲームの担当ですが、今年は今までしていない新しいゲームに取り組もうと、みんながアイデアを出し合っています。子どもたちに楽しんでもらえるゲームに仕上がるよう、精一杯がんばります。

（十月三日）

「くじ引き係になって」

伊東 和代（年中わかば組保護者・バザー実行委員） 日記

今年、くじ引きを担当させていただくことになりました。初めてのことで、分からないことだらけでしたが、話し合いを重ねていくうちに、子どもたちが喜んでくれそうな、くじ引きを企画することができました。

くじ引きは、ひも引きとガチャガチャの二種類です。ひも引きは男の子にも女の子にも人気で楽しんでもらえる景品を、またガチャガチャは、男の子用、女の子用に分け、カッコイイものやかわいい景品を選びました。「自分が子どもの頃は、何が嬉しかったかな?」「どのような物が人気だったかな?」と童心にかえて楽しんで企画することができました。当日は、是非、くじ引きにお越しただいてワクワク、ドキドキ感を味わってください。（十月二日）

「大根の種植えて二度の驚き」

庄 恵理奈（年長つき組担任） 日記

年長さんにとっては、最後の野菜の種まき『大根の種まき』を行いました。「大根の種まきに行くよ！」と声を掛け、えのくまファームに行きました。「大根って何からできると思う？」と問いかけると、「大根の上がでつかい葉っぱやけん、葉っぱ！」「根っこから伸びてくるんやない！」「木！」と興奮気味に答える男の子たち。すると女の子たちは、「先生『大根の種まき』つち言ったやん。種で。」と大人な口調で言いました。実際に大根の小さな種を見せると、いつも見ている大きな大根からは想像もできない大きさの種に全員が目を丸くさせて「すごい！種小さい！」「これから大根できるん？」と驚いていました。いつも良いリアクションをしてくれる子どもたちにも、私も楽しませてもらっています。丁寧に種を植え、「大きくなあれ！」とお願いをしました。「大根はいつ収穫できるか知ってるか？」と園長先生に聞かれ、答えも様々でしたが、「冬だぞ！」と教えてもらおうと、またまた「ええく！そうなんだ！」と良いリアクションを見せてくれた子どもたちでした。

（十月三日）



「お弁当日」

高橋かおる（年中わかば組担任） 日記

今日はお弁当日でした。お弁当日はみんな、早く食べ終えてしまう中、K君が少し時間がかりながらお弁当を食べていました。すると、食べ終えたR君ががやつてきて、「あとどれくらい？あと少しやん。がんばって。」と声をかけていきました。声をかけられた子も嬉しそうに頷いて、またパクパクと食べ始めました。しばらくするとH君がやつてきて「プチトマトきらいなん？食べてみたらおいしいよ。」と声をかけていきました。K君はプチトマトをじつと見て、何やら考えていましたが、やはり食べることができませんでした。するとまたH君に「他のは全部食べたけん、すごいやん。」と言われました。K君はにっこりしながら、「食べたよ。」と嬉しそうでした。

クラスのお友だち同士で優しく声をかけている姿をみて、とても心が温かくなりました。

（十月四日）

「K君の笑顔」

園長日記

雨と台風で、満足に運動会の練習が出来ない日が続いていましたが、今朝は晴れ間が見られ気分よく登園しました。

車から降りて、三日前の月曜日に年長さん達が「えのくまファーム」に立ち寄りしました。「まだ芽は出てはいないだろう。でもひよっとしたら第一号があるかな」と思っって畑を見渡しました。ありました！なぎさ組のK君の名前が書かれた割りばしの小旗の横に小さいながらも、畑の土を切り割るように黄緑の芽が出ていました。嬉しくなっって一時間後、園庭で遊んでいたK君に朗報を告げ、二人で小走りで見に行きました。大根さんの芽を見るK君の笑顔は最高でした。

（十月六日）

「ある日の運動会の練習」

武生 香里（年少はな組担任） 日記

運動会に向けて、練習を重ねてきたある日。年少3クラスがホールに集まり、各クラスごととにダンスを踊り見せ合いをしました。友だちが踊っている様子を食い入るように見て見ている子どもたち。その姿に刺激を受け、いつも以上に張り切って踊る姿や「○○ちゃんが上手やった！」と友だちの良さを認める姿が多く見られました。その姿を嬉しく思うとともに、これからも、クラスにかかわらず、互いに刺激し合いながら、成長していつてほしいと思いました。

（十月六日）

「とんぼのメガネ」

園長日記

運動会の設営・準備のために子どもたちは早帰りをしました。そんな日の午後、園長室に「とんぼのメガネ」の曲が流れてきました。

どこの教室で先生がピアノを弾いているのかなと、園等室を出て訪ねて行くと、そこは新園舎の預かりさんの教室でした。教室には多くの子どもたちがいました。「とんぼのメガネに引かれて訪ねてきたよ」と話すと、照岡 峰子先生がリクエストに応えて、もう一度ピアノを弾いてくれました。すると子どもたちもピアノに合わせて歌ってくれました。天気が心配で「うんどうかい」がどうなるのか、心配が頭から離れなかった一日でしたが、「とんぼのメガネ」で少し、救われました。

(十月七日)



「運動会に向けて」

岩武 まどか (年中そら組担任) 日記

運動会の練習が終盤になるにつれて、子ども同士でどうやったらダンスを上手に踊れるか、かけっこで早く走れるかなどを話す姿が多く見られるようになりました。自由時間の時も友だちと一緒にダンスを踊ったり、リレーをしたりと運動会に向けて頑張りが、本番を楽しみにしていました。子どもたち一人ひとりが運動会に向けて期待を持って取り組む姿を見て、とても嬉しかったです。運動会では、子どもたちみんなが輝いていて、とても感動しました。運動会を通して、さらに友だちやクラスの仲が深まりました。保護者の皆様、温かい声援と拍手をありがとうございます。

(十月九日)

「みんなで食べるとおいしいね」

小野 智美 (年中にじ組担任) 日記

運動会練習が始まると、クラスの中では、一学期に仲の良かったお友達だけでなく色々なお友達と遊ぶ姿が多く見られるようになりました。

そんなある日のお弁当日、お弁当を食べている途中、お弁当のご飯を落としてしまった子がいました。すると口々に「先生、僕のお弁当分けてあげて」と何人かの子どもたち。周りを見渡すと心配そうな子どもたちと目があいました。幸いもうほとんど食べ終わったお弁当だったので、そんな声があがったことをとても嬉しく思いました。前日は雨も降り、出来るかと心配していましたが、保護者の方々のおかげで無事運動会をすることが出来ました。運動会も黄色の旗が風になびき、一列になって踊っている姿に、練習の成果を力いっぱい踊って発揮しているなと思ひ、子どももとても凄いなと改めて感じました。

(十月九日)



「金メダル？銀メダル？」

松本 美香 (年中ことり組担任) 日記

出来るかどうか心配だった運動会。朝早くから水取りやテントの移動をして下さったお父さんやお母さん方のおかげで、何とか予定通りに行う事ができて、子どもたちも練習の成果を十分に発揮する事ができました。

最後のご褒美をもらうのを楽しみに頑張っていた子どもたち。オリンピックの年でメダルを見る機会があったからか、もらうまで「僕は銀メダルがいいな！」「私は銅メダルがほしい」と、みんなで何色をもらうか楽しみにしながら待っていました。もらう時になって色を見てみると、金メダル！銀メダルを楽しみにしていた子どもたちもいましたが、首にかけるとすごく満足そうな表情で、友だちと見せあいこをしながら喜んでいました。頑張った証のメダルは何色でも嬉しかったようでした。

(十月九日)

「生涯の思い出となる運動会」

園長日記

これまで教師として四十回以上も運動会にかかわってきましたが、今年の運動会は、その中でも格別のものになりました。天候不順に加えて、二度にわたる台風での休園もあり、練

習や準備が随分遅れました。「小運動会」はグラウンドが使用できず、室内（記念館）での実施となりました。当日も早朝まで風雨が強く、テントの一部が吹き飛ばされ、グラウンドには水溜りがあるなど、厳しい状況でした。

実施可否か、随分悩みました。深夜に雨音を聞いた時は「もはやこれまでか」と覚悟しましたが、悩むより直接、園に出てみようと思いたち午前三時に登園しました。幸いにも雨が次第に小降りになったことや、数日前から子どもたちが短い練習時間ながら、先生達の熱血指導にこたえ真剣に取り組み、運動会を楽しみにしていること、そして多くの保護者の方のご協力でグラウンドやテント整備等をして頂いたこともあり、実施することができました。運動会で真剣に楽しく頑張った子どもたちはもとより、お集りいただいた全ての方々にとっても「生涯の思い出となる運動会」として記憶に残して頂ければ幸いです。（十月九日）

「運動会」

波多野 幸子（副園長・教頭） 日記

運動会が終わった途端の晴天続き。恨めしくもあり、これほど天気に振り回されたことはなかったように思います。台風十八号が遠のいた後、安心どころか怪しい雲行きに不安は募るばかり。前日の夜中も雨音は絶えず聞こえていました。

天候の回復を確かめ実施を決定した夜明け前、ぬかるんだグラウンドの整備に黙々と協力してくれたのは場所取りに來られたパパたちでした。暗闇の中、夜中に吹き上げられたテントを元にもどし、水溜りの地面に雑巾を当てての吸い取り作業。グラウンドの回復を待ち一時間遅れの開催となりましたが、子どもたちが足元をとられることなく、無事に演技・競技ができたのも力強いパパの助けがあったからこそでした。直前まで心配の尽きない運動会でしたが、子どもたちの最高の笑顔と姿に、すべてが秋晴れの空高くに消えていきました。「私たちもお弁当の仕込み、大変だったのよ」とママたちの声も聞こえてきます。皆様、本当にご協力ありがとうございました。（十月十一日）

★前号でなっちゃんの記事を載せた以降、お野菜がたくさん届き、温かい思いやりの心が本当に嬉しかったです。お外のハックちゃんにもおすそ分けして、なっちゃんもモリモリ食べています。これからもよろしくね。



山際 雅晴（年中にじ組保護者） 日記

「運動会を終えて」

昨年は、息子が年少で初の運動会でしたが、私は生憎の仕事で参加できず、妻の話や写真の様子から、苦い経験で終わったことがよく分かりました。

そんな苦い経験があつての今回の運動会。不安は募るばかり。しかし、いつも幼稚園に送って行く時とは違い、当日は笑顔でお友だちと運動会を楽しんでいました。体も小さく、立ち位置は先頭です。間違いがあるとよく目立ちます。お友だちと違う方向へ旗を振る息子。泣きながら走る息子。オリジナルのダンスをする息子。色々な失敗がありました。ただ、途中で投げ出すと心配していただけに、昨年とは違い最後までやり遂げた姿に成長を感じ、胸が熱くなりました。泣くこともあつた運動会でしたが、来年は年長のような、更に成長した姿を楽しみにしています。（十月十二日）

「竹馬」

梶間菜摘（年長なきさ組担任日記）

運動会に向けて毎日練習に励む中で、密かに竹馬の人氣が出てきました。初めは女の子が三、四人集まって少しずつ練習をしていました。初めは竹馬に乗ることが精一杯で「全然できんー」と一、二歩進むのもやっとのことでした。しかし、毎日練習を続ける中で少しずつコツを掴み、日に日に上達していきました。

三日程経つと、「先生見て！乗れるようになったけん！」と、自由に竹馬を乗りこなす様子が見られました。それを見ていたほかの子どもたちも「私もやる！」と、より大勢で竹馬に

取り組むようになりました。初めはみんな上手くいかず諦めがちですが、子どもたち同士で「もつとこうした方がいよ」とアドバイスをしたり、「すごい！十歩も進んだ！」と、一緒に喜ぶ姿がたくさん見られています。運動会練習を通して友だちとの仲がより深まりましたが、今後も友だちと協力して様々なことに取り組んでいってほしいです。(十月十二日)

「みんなでいっしょに」

小川 真里奈(年少ゆき組担任) 日記

先日、多くの保護者の方にご協力頂き、無事に運動会を行うことができました。

運動会の練習が始まったころは、自分の場所が分からず並び終わるのに時間がかかっていたゆきぐみさん。運動会できるかな、大丈夫かと心配するところもありましたが、ダンスやかけっこに笑顔で取り組む姿に私も楽しみながら練習をすることが出来ました。練習を重ねていくうちに、「○○ちゃんはこっちだよ」と、お友だちに優しく教えてあげる姿や、ペアのお友だちと協力しながら練習する様子が見られるようになり、成長を感じることができました。

これから、この成長を自信につなげて、たくさんのことにチャレンジできるようにかかわっていききたいと思います。(十月十二日)



「楽しかったね」

内藤 紀央(年少ひかり組担任) 日記

先日、保護者の方々のご協力を頂き、無事に運動会を行うことが出来ました。開会式での選手宣誓で、ひかり組の代表だったI君。練習では前に出ると、恥ずかしさと緊張で担任の私の方を見ている姿がありました。練習で上手く言えた時は笑顔、自分の中で上手く言えなかったと感じてしまうと、とても悔しそうにしていました。

そしてついに運動会当日。ドキドキを隠せない担任の私の方を一度も見ることなく、前のめりになりながらマイクに顔を近づけ、今までで一番大きな声で堂々と選手宣誓が出来ました！その後ろ姿に開会早々、子ども達の成長を感じ、感動しました。緊張で普段通りに行かない時であれば、練習以上に集中する姿や、楽しむ姿もあるなど、一大行事だからこそ感じる事ができた気がします。(十月十二日)

「雨のち快晴！」

渡邊 美香(年長なぎさ組保護者・父母の会会長) 日記

前夜の天気は大荒れ。不安な気持ちしていると、先発部隊(夫)から「運動会、何とかできそうだよ。」との一方が。聞けば、保護者の皆様と先生方が力を合わせて、飛ばされたテントの復旧やグラウンドの水たまりの除去をしてくださったとのこと。皆様の「子どもたちに笑顔の運動会を届けてあげたい」という想いに、朝から胸が熱くなりました。

運動会が始まると、天気は快晴に！秋晴れのもと、子ども達が懸命に頑張る姿はキラキラと輝いて見えました。我が子の成長を肌で感じ、これまでの思い出が走馬灯のように駆け巡り、思わず目頭が熱くなりました。我が子にとっても、私にとっても最後となる幼稚園の運動会は、先生方と保護者の皆様、そして子ども達の想いが詰まった最高の運動会だったと思います。ご協力をいただいた保護者の皆様、本当にありがとうございます。(十月十二日)